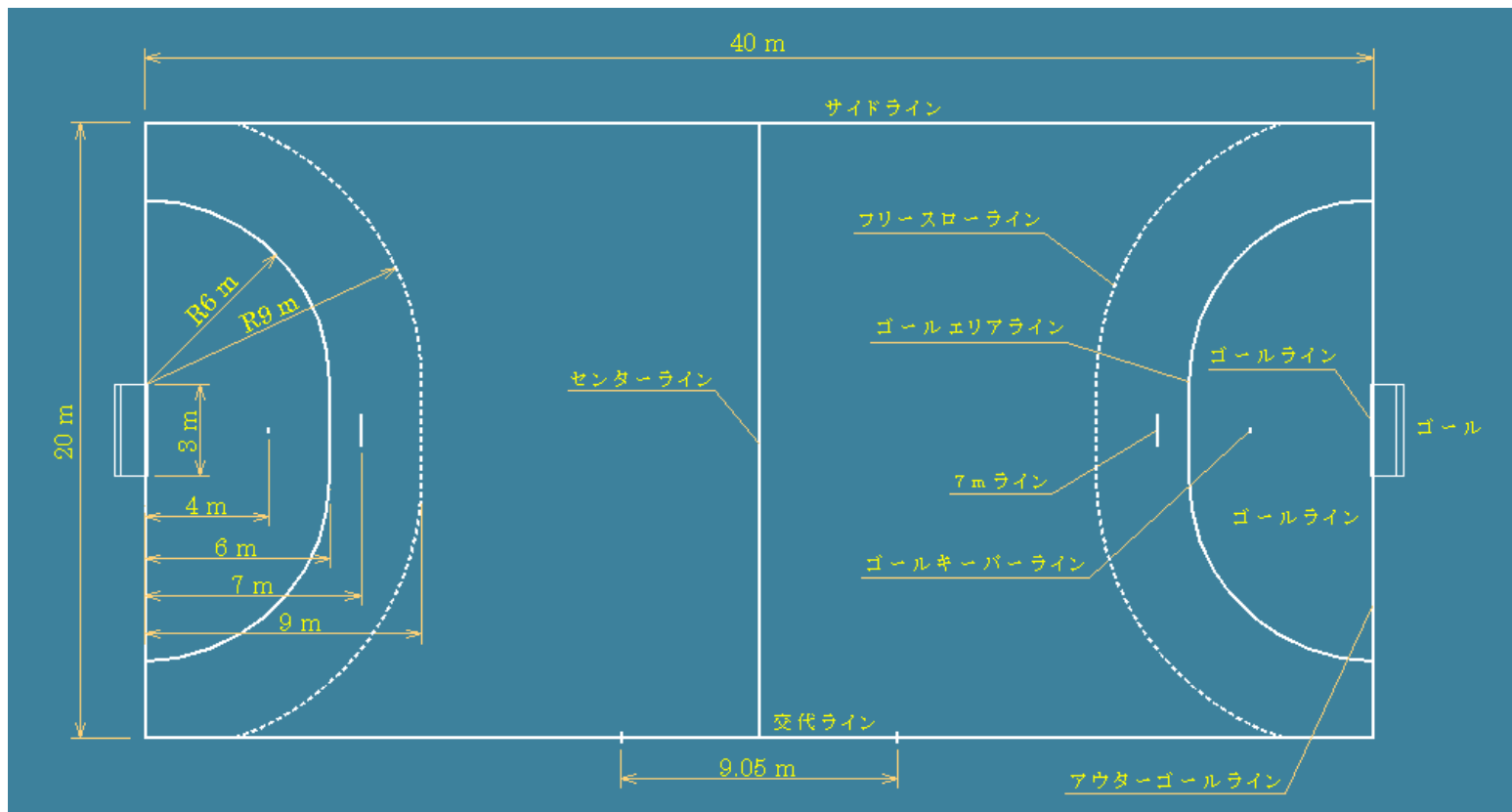


コート・ボール

コート

- ・ 20m×40m
- ・ 6mの半円



ボール

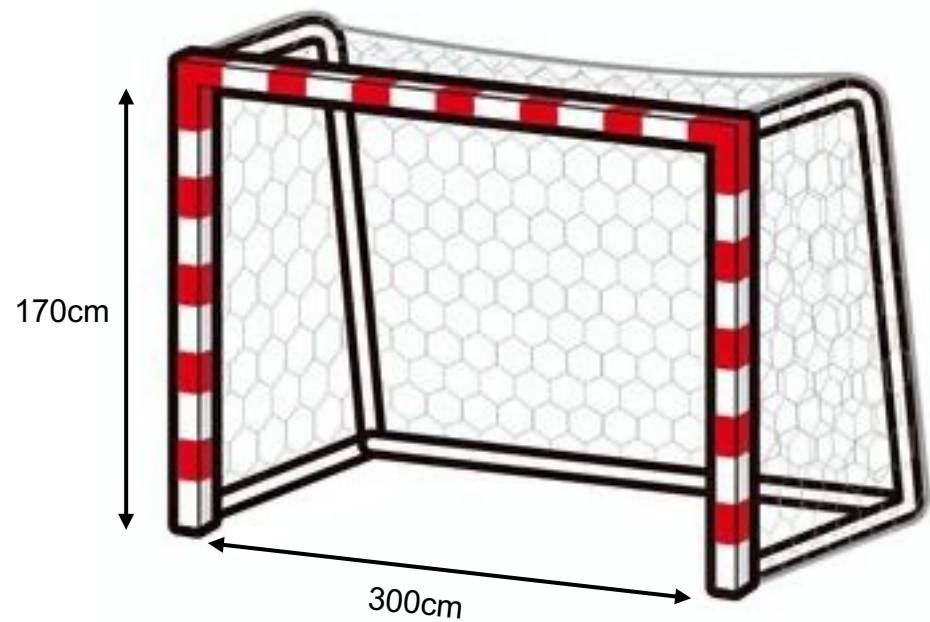
- ・ ハンドボール2号球



54~56cm

一般・大学・高校（男子）	3号球
一般・大学・高校（女子）、中学校	2号球
小学校	1号球

ゴール・車椅子



- 高さ 63cmまで
床～座面
- 大腿部・下腿部にベルト

ルール・チーム

2種類

屋内ハンドボールからつくられた6人制

ビーチハンドボールの要素を取り入れた4人制

	6人制	4人制
コート人数	6人（女性1人）	4人（女性1人）
チーム構成	12～16人（女性3人）	8～10人（女性3人）
GK	1人	1人 誰でもOK
持ち点	17点以内	12点以内

選手はいつでも何度でも、[交代ライン](#)から自由に交代することができる

試合時間

6人制

●競技時間



●延長戦



●延長戦でも決しない場合

3名の7mスロー

4人制

●競技時間



●延長戦

先に得点した方の勝ち



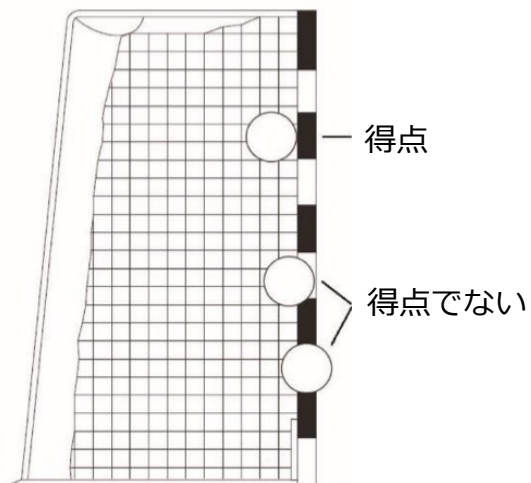
●延長戦でも決しない場合

5本のシュートアウト

6人制と4人制の違い

6人制

- 得点后、センターラインからスタート
- GKは固定
異なる色のユニフォーム
- 得点はすべて1点



4人制

- GKスローからスタート
- GKはだれでもOK
全員同じ色のユニフォーム
- 2点もある
 - ・ 360度回転 (片手、完全)
 - ・ GK→ゴール直接
 - ・ 7mスロー

スペクタクルシュート

ボールの扱い方

OK

- 最大3秒間ボールを保持
3秒間は車椅子を何回漕いでもOK
- 相手の手からボールを奪う
- 車椅子をつかってボールを拾う

NG

- 相手の膝の上のボールを奪う
- 車椅子をつかってボールをとめる
(G KはOK)

フール

オーバータイム

3秒以上ボールを保持する→相手のフリースロー

ダブルドリブル (イリーガルドリブル)

ドリブルしたボールを一度持って、
再度ドリブルする→相手のフリースロー

ラインクロス

フィールドプレイヤーがボールを持ったまま
ゴールエリアに入る→相手のG Kスロー

バックパス

味方のゴールエリアにいるG Kにパスをする
→相手のG Kスロー



ゴールエリア

ラインに少しでも車椅子が入るとラインクロス

フール

チャージング

走りながら相手にぶつかる→相手のフリースロー

ハッキング

相手プレイヤーの腕や手を叩く

→相手のフリースロー

プッシング

身体や車椅子をつかって相手を押す

→相手のG Kスロー

ホールディング

相手の車椅子や身体、ユニフォームを捕まえること

→相手のG Kスロー

その他

パッシブプレー

攻撃の意図を示さずにボールを所持し続ける
審判の合図後、最大パス4回→相手のフリースロー

ボールを持ったままサイドラインを越える→相手のサイドスロー

ボールを持たずにコート外へ出る
注意→相手のフリースロー

7mスロー

明らかなる得点チャンスに笛が吹かれたとき

G K

- ・ゴールエリア外のボールを取る
- ・ボールを持ったままゴールエリアラインを越える
→相手のフリースロー

ライン上はOK



サイドライン

罰則

イエローカード

- レフェリーに抗議
- 相手を挑発
- ファウルの演技
- 相手のスローに3m確保しない

2分間退場

退場している2分間は代わりの選手をいれることもできない

- 高速で相手にぶるかる
- ファウル後の遅延行為
- リフティング
G Kがすれば+7mスロー
- 頭部や喉、首に対する違反
- 不正交代、チームの最大持ち点を越える
- 頭部へのシュート
- レフェリーに抗議（ジェスチャー・声 大）

クラス分け

1点～4点の1点刻み

※4人制での戦略的なハイポインター3人はダメ

クラス 4

- 正面と片側で接触しても安定性を失うことなく、両手でボールを頭上に保持することができる。
- 弱い方の側への接触では安定性を失うことがある。
- 体幹を能動的に片側の側方に動かし、腕を使わずに直立姿勢に戻ることができる。
- プレーヤーは弱い方の側に部分的に傾くかもしれないが、直立姿勢に戻るのに腕を使う必要がある。

クラス 3

- 一体化した能動的な体幹の回旋があるため、垂直面内に完全な運動範囲がある。
- 体幹の安定性を損なうことなく両手を頭上に上げてボールを保持することができる。
- 体幹を完全な前方面(90度)に能動的に動かすことができ、上肢を使って動きを助けることなく直立姿勢に戻ることができる。
- 左右どちらかに体を傾けた後、直立姿勢に戻るのに少なくとも片腕が必要である。

クラス分け

クラス 2

- 下部体幹を背もたれに安定させた状態では、両方向への上部体幹の回旋が可能である。
- 頭部や体幹でバランスを取らなくても、両手でボールを持ち顔の前に伸ばすことができる。
- 体幹を前方に約45°傾けることができ、上肢の支えなしに直立姿勢に戻ることができる。
- 大腿部に乗るほど深く体幹を前方に傾けたときは、両膝を股関節よりも著しく高くしていない限り、少なくとも片方の腕を使わずに体幹を持ち上げてくることはできない。
- 側方面にバランスを崩した時は、両腕を使って直立姿勢に戻る必要がある。

クラス 1

- 頭や体幹を後方に傾けてバランスを取ることをしなければ、両手でボールを持ち顔の前に伸ばすことはできない。
- すべての運動面で支持するために、車椅子に寄りかかるか両上肢の支えが必要である。